

好奇心漫遊記：世の中面白い事だらけ

社会科編-9：1日1万円以下のエジプト・トルコ

矢澤 洋爾



前回は五日間二人で五万円の北京旅行をご紹介した。今回はエジプト・トルコへ13日間11万9800円の旅行をご紹介する。別途サーチャージが1万8000円かかったので、総計は13万7800円となったが、それでも1日1万円そこそこで一泊三食移動および入場券付き、である。国内旅行より安い。一体どうしてこういう価格が実現できるのか。同行した旅行会社のガイドも驚きの価格であった。往々にして安いパック旅行は飛行機がどこかを經由して行くケースが多いが、今回は成田からイスタンブール直行便、ホテルも立地が若干悪いが総じて高級なホテルで室内も食事も平均以上のものだった。

トルコの冬はオフシーズンでそれが安価を実現する理由のようだ。日本の旅行会社（今回は阪急交通社）がトルコの旅行会社に企画案を提示して、この内容の旅行をいくらで組み立てられるか見積を取り、それに利益を上乗せして販売している、という実態であるとの事。これからもこうした穴場的パック旅行を楽しみたい。

さて、今回の旅行は以下の通り。

### 1日目：成田→イスタンブール（直行便） イスタンブール泊

イスタンブールのホテルとその食事。トルコは食事がうまい。イタリアよりうまい。パンのうまさも格別だった。



### 2日目：イスタンブール→カイロ ガラス細工・香水の店 ギザ泊

最初の観光地はエジプトカイロ。ならば成田から直接カイロに行けば良いじゃないか、と思うのだが、やっぱり調達先がトルコの旅行会社なのでトルコ航空じゃないと安くないのだろう。でもイスタンブールの宿泊は悪くなかった。

ただ、イスタンブールからカイロへの飛行機が2時間遅れ、予定の観光はキャンセルして翌日回し。土産物店に立ち寄ったのみでこの日は終わる。

カイロ空港から市内に向かう道の両側は砂漠。殺伐と



した風景が続く。家も貧しい。どうしてこんな所に古代文明が栄えたのか、不思議。

ホテルは砂漠の中のオアシスという風情で、西洋人の宿泊者も沢山いた。



### 3日目：ギザの三大ピラミッド、サッカラの階段状ピラミッド、ダハシュールの屈折ピラミッド、メ ンフィス ギザ泊

現地ガイドのファタヒとクフ王のピラミッドを背景に。階段状ピラミッドのあるサッカラでは発掘が行われていた。完了すれば素晴らしい観光地になるだろう。



### 4日目：カイロ市内観光 深夜 カイロ→イスタンブール

エジプト考古学博物館でツタンカーメンの黄金のマスクを見る。この博物館では入場の際カメラを取り上げられる。中で写真を撮られないようにするために。昼食はナイル河に浮かぶレストランで。

深夜 12 時にホテルを出発、夜の 2 時の飛行機で再びイスタンブールに向かう。こういう強行軍も安いパック旅行の特徴。



### 5日目：イスタンブール→アンカラ アンカラ市内観光 アンカラ泊

アンカラにはアタチュルク廟がある。壮大な墓で室内はキンキラキン。憂国の思いが少しでもあれば、決してこんな墓は望まなかったのではないかと思われるが、そこは日本人と感覚が違うのか。

アナトリア古代博物館は写真撮影自由。

ホテルは内部はよいが、立地は最悪。周りに何もない。ただ、食堂のコーヒーは美味しかった。



## 6日目：アンカラ→カッパドキア 地下都市等観光 洞窟ホテル泊

奇岩の地カッパドキアはトルコ観光の名所。

昔から岩を掘って人が住み、今でも岩の中に住む人がいる。

洞窟ホテルに泊まる事を目玉に高い料金のパックスツアーもあるが、この料金でも冬なら洞窟ホテルに泊まれる。

岩をくりぬいて作っているためか、床が若干傾いている。ワインのビンが独りで転がった。



## 7日目：カッパドキア→コンヤ コンヤ市内観光 コンヤ泊

カッパドキアからコンヤへ向かう道は、アナトリア(トルコ)を横断するシルクロードがまっすぐに伸び、トルコの大地を味わう。コンヤはかつてトルコの首都であった都市。メヴラーナという宗教の本拠地でもある。ホテルはヒルトンがロシア財閥に営業権を譲渡したホテル。超高級。中のスイミングプールやハمام(トルコ式風呂)を満喫した。



## 8日目：コンヤ→パムッカレ、ヒエラポリス観光 パムッカレ泊

パムッカレは石灰岩が美しく段上に連なっている。温泉が湧き出ており足湯を楽しめる。



## 9日目：パムッカレ→エフェス遺跡観光 アイワルク泊

エフェス遺跡ではギリシャ文明を忍ぶ事が出来る。今回の旅行で一押し。ホテルからはエーゲ海が見えるはずだったがあいにくの悪天候でそれが出来ず。ただ潮騒の音を聞いていた。



**10日目：アイワルク→トロイ遺跡 ダーダネルス海峡を渡りイスタンブールへ イスタンブール泊**  
アタチュルクを絶賛してやまなかった現地ガイドがことシュリーマンになると「墓泥棒」とののしる。トロイの遺跡から多くの宝物を持ち去ったからだと言う。シュリーマンがいなかったらトロイの観光はあり得なかつただろうに。雨のダーダネルス海峡をフェリーで渡る。



**11日目：イスタンブール市内観光 ブルーモスク、トピカプ宮殿、エジプシャンバザール等 ベリーダンスを見ながら夕食 イスタンブール泊**

ブルーモスクの柱の巨大さに驚愕。トピカプ宮殿にはオスマン・トルコの繁栄の証、数多くの財宝が展示されている。中にイスラム教の教祖ムハンマドのフットプリントがある。その足の大きさも驚き。ただ、ガイドは本物かどうか分からないと言う。



**12日目：ボスポラスクルーズ 鯖サンド アヤソフィア イスタンブール空港へ**

ボスポラスクルーズではメフメト II 世がコンスタンティノープル攻略のために作らせたというルメル・ヒサル砦が印象的だった。二ヶ月で作らせたとか。秀吉の墨俣の一夜城のトルコ版だ。



鯖サンドは鯖の塩焼きをフランスパンに挟んだもの。パンが美味しいからこれもいける。我が家でも作ってみるか。

現地ガイドのミュージはイズミール出身。イズミールには美人が多いと自分から紹介していた。



**13日目：イスタンブール→成田**

(10.04.05)